

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民の定住意識や生活環境に対する評価、市政の各分野についての意向などを把握し、今後の行政施策の参考資料とするものである。

2. 調査の内容

- | | |
|----------|--------------------|
| (1) 調査地域 | 福生市 |
| (2) 調査対象 | 市内在住の満20歳以上個人 |
| (3) 標本数 | 1,000 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 (100地点) |
| (5) 調査方法 | 調査員による個別面接法 |
| (6) 調査期間 | 平成12年7月22日～8月1日 |
| (7) 調査機関 | 株式会社 エスピー研 調査事業部 |

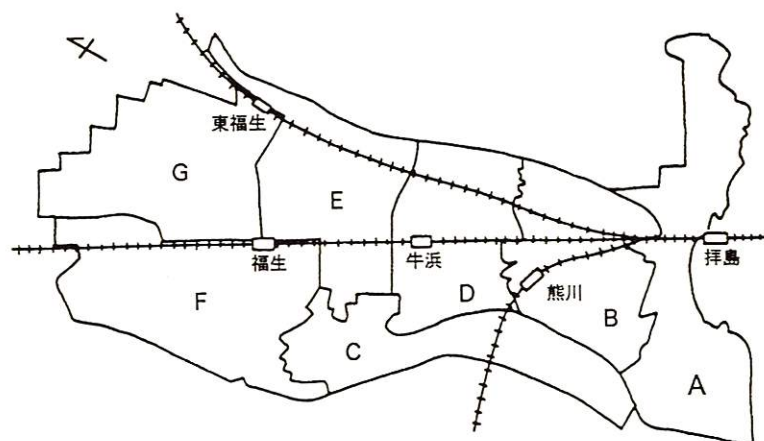
3. 調査結果

- | | | |
|------------|----------------|-----------|
| (1) 標本数 | 1,000 (100.0%) | |
| (2) 回収数 | 778 (77.8%) | |
| (3) 回収不能数 | 222 (22.2%) | |
| (4) 回収不能内訳 | 件 | 件 |
| 転居 | (9) | 住所不明 (24) |
| 長期不在 | (17) | 拒否 (53) |
| 一時不在 | (116) | その他 (3) |

(注) 1地点2名の予備標本を追加抽出し、正規標本が転居、死亡、住民登録のみなどの理由で居住していない場合に代替して調査した。

4. ブロックの構成

(1) 地域特性を把握するため、前回（平成9年）調査の分類にしたがい、町会（地域）区分を下記7地域に分割した。



区 域	町 会 （地 域） 名
Aブロック	熊川住宅自治会、南町会、内出町会、武蔵野町会、武蔵野第二町会、福東町会
Bブロック	鍋一町会、鍋二町会、玉川台町会、富士見台自治会、福栄町会
Cブロック	福生団地自治会、志茂一町会、南田園一丁目町会、南田園二丁目町会、南田園三丁目町会
Dブロック	熊牛町会、牛浜一町会、牛浜二町会
Eブロック	志茂二町会、本町七町会、原ヶ谷戸町会
Fブロック	本町一町会、本町二町会、本町三町会、中央町会、本町六町会、永田町会、長沢町会、加美一町会、加美二町会
Gブロック	加美平団地自治会、本町八第一町会、本町八第二町会、武蔵野台一丁目町会

(2) 地域別の回収結果

区 域	20歳以上の人口	標 本 数	有効回収数	有効回収率
全 体	47,722	1,000	778	77.8%
Aブロック	6,714	150	110	73.3%
Bブロック	6,021	130	101	77.7%
Cブロック	5,985	110	92	83.6%
Dブロック	4,993	100	80	80.0%
Eブロック	6,581	140	104	74.3%
Fブロック	7,745	160	129	80.6%
Gブロック	9,683	210	162	77.1%

5. この報告書の見方

〔注意事項〕

- (1) 表の中のnとは回答者総数（あるいは分類別の回答者数）のことである。
- (2) 百分比はnを100%として算出し、原則として「Ⅰ調査の概要」、「Ⅱ質問と回答」、「Ⅴ集計結果表」では小数点第2位を、「Ⅲ結果のあらまし」と「Ⅳ結果の分析」では小数点第1位を四捨五入した。このため、百分比の合計が100%に満たない、または上回る場合がある。
- (3) 各質問には、（1つだけ）（2つまで）（いくつでも）のように回答個数を指定した。
- (4) （M. A.）とは、回答が2つ以上ありうる（複数回答）という意味である。したがって、比率の合計は100%を超えることがある。
- (5) 図表中0は四捨五入の結果を示し、－は回答者が皆無であることを示す。
- (6) 「Ⅳ結果の分析」における標本特性別の分析については、原則単数回答を求める質問においては帯グラフを、複数回答を求める質問においては表や棒グラフを用いた。
- (7) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を省略化してある。
- (8) 帯グラフや棒グラフの長さは、小数点第1位までの数値を用いグラフ化したものであり、パーセントの数字は小数点第1位を四捨五入した後のもので表示した。したがって、同じパーセント表示でも帯や棒の長さが多少異なることがある。

〔標本誤差〕

下記に層化2段無作為抽出の場合の標本誤差の式と標本誤差の早見表を示した。なお、信頼度を95%とした計算式である。

$$b = 2 \times \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団の人数
 n = 比率算出の基数（回答者数）
 P = 回答の比率（%）

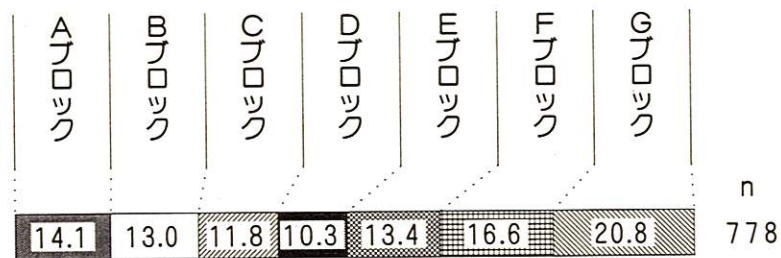
＜標本誤差の早見表＞

$\begin{matrix} P \\ \backslash \\ n \end{matrix}$	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体 (778人)	± 3.0%	± 4.1%	± 4.6%	± 5.0%	± 5.1%
600	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
500	± 3.8%	± 5.1%	± 5.8%	± 6.2%	± 6.3%
400	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
300	± 4.9%	± 6.5%	± 7.5%	± 8.0%	± 8.2%
200	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	±10.0%
100	± 8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%

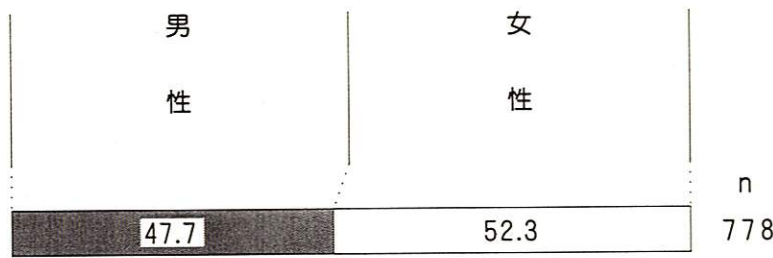
（注）上表は小数点以下第2位を四捨五入して算出した数値である。

6. 標本特性

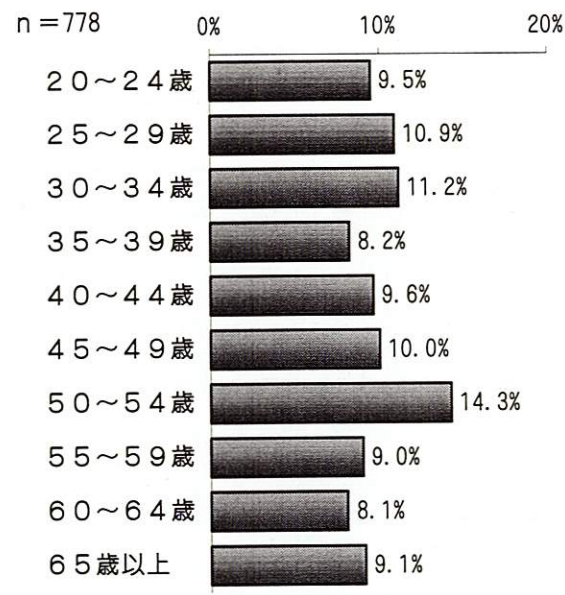
(1) 居住地域



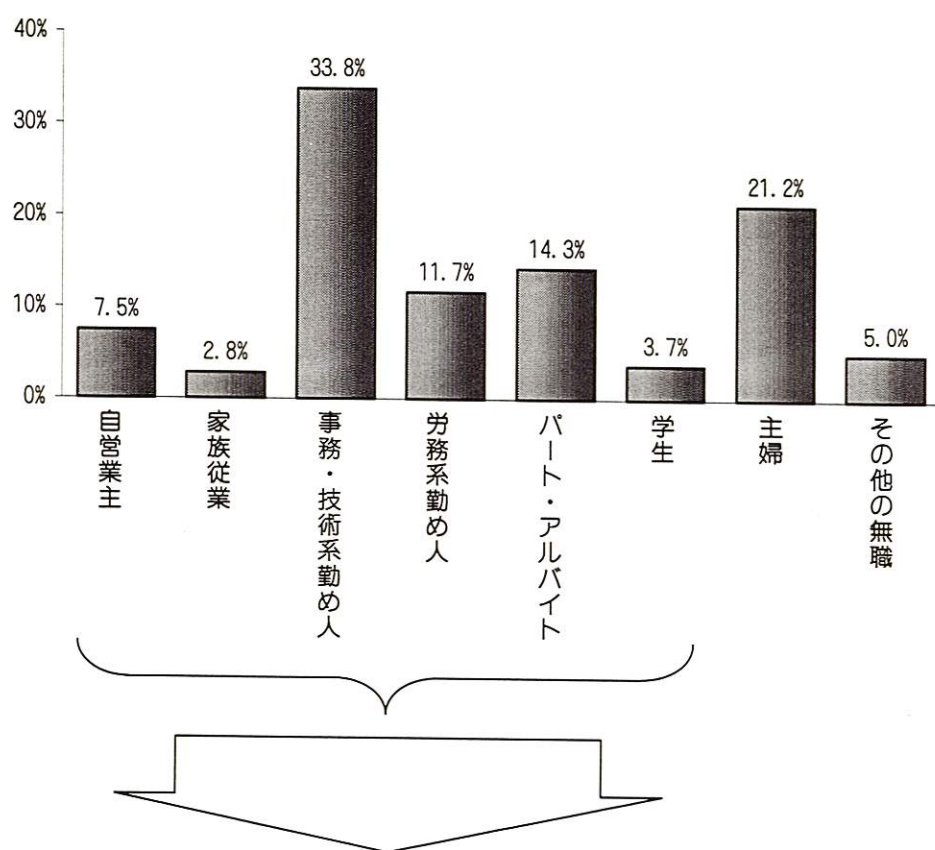
(2) 性別



(3) 年齢

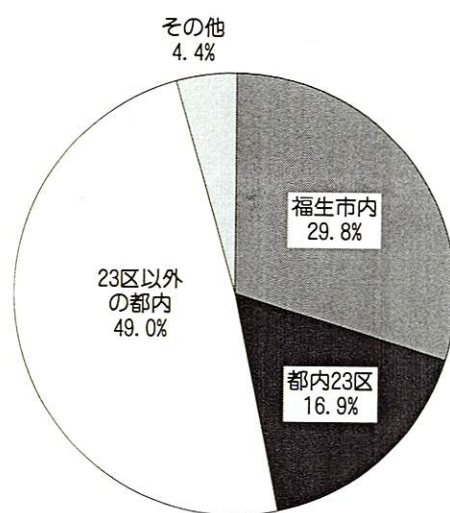


(4) 職 業 n = 778

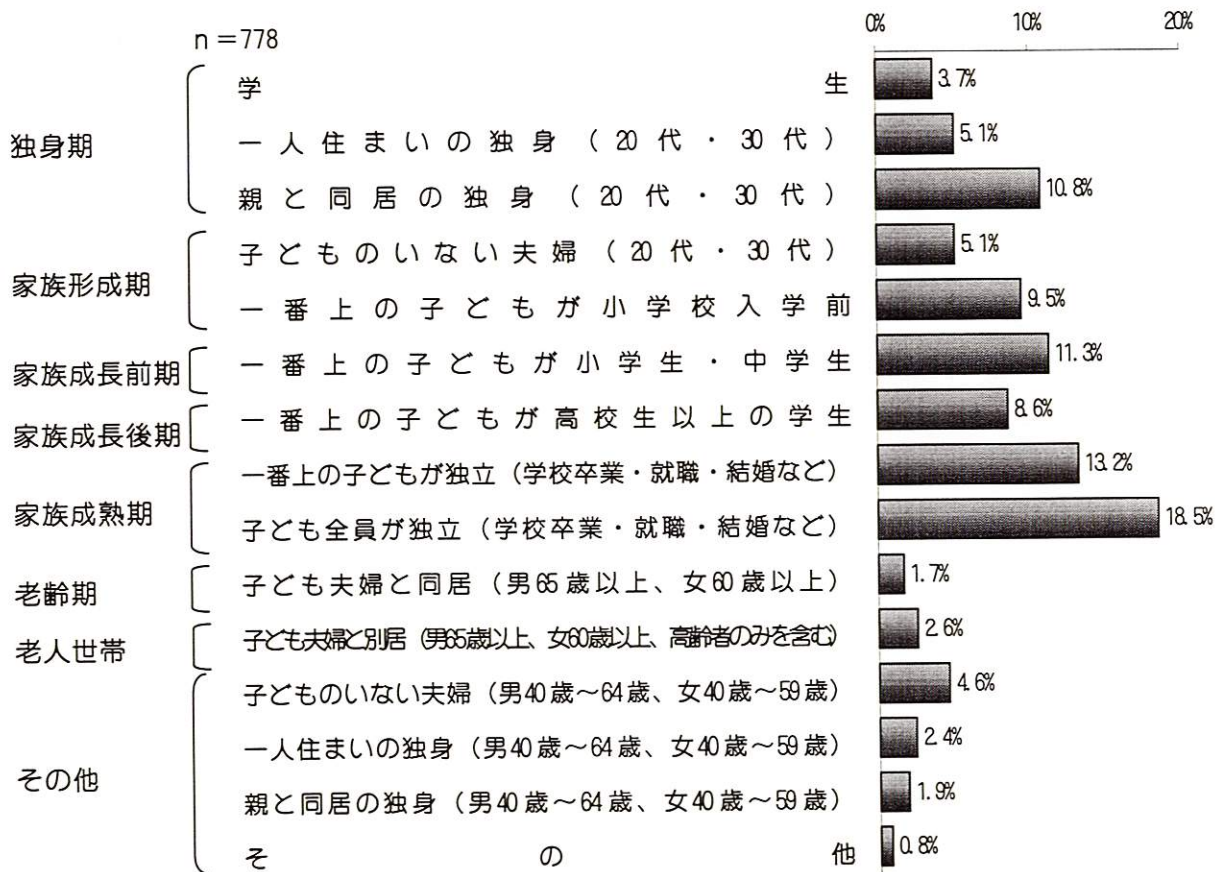


(5) 通勤・通学地

n = 574



(6) ライフステージ



(7) 住居形態

